

証言



戦争

治安維持法（1925年制定、45年廃止）によってあらゆる民主的な運動が弾圧された30年代。ファシズムの嵐が吹き荒れるなか「労働者・農民の病院をつくれ」「医療は民衆のために」と無産者診療所の開設に奔走した青年たちがいました。京都市の柏木みどりさん（73）の面親もそのなかにいました。

開設を記念した写真の中央で腕を組むのが初代所長の加藤虎之助・医師。周りを父・茂弥さん、母・操さんらが囲みます。時は「満州事変」（同年9月）直前。政府は戦争へとばく進。農民や労働者は貧困に苦しみ、大多数の国民は医療を受けられませんでした。

「貧乏人の病院をつくらう」と、ひたむきにがんばりはった「芸術家だった父・茂弥さん。赤貧のなか、「戦旗座」公演や「プロレタリア美術展」を開き、労働争議をたたかう仲間とともにカンパを集め、診療所の開設費用をつくりました。その思いに心えたのが京都帝大を卒業した加藤医師

田市に開設しました。全国でも番目の無産者診療所でした。開設を記念した写真の中央で腕を組むのが初代所長の加藤虎之助・医師。周りを父・茂弥さん、母・操さんらが囲みます。時は「満州事変」（同年9月）直前。政府は戦争へとばく進。農民や労働者は貧困に苦しみ、大多数の国民は医療を受けられませんでした。

「貧乏人の病院をつくらう」と、ひたむきにがんばりはった「芸術家だった父・茂弥さん。赤貧のなか、「戦旗座」公演や「プロレタリア美術展」を開き、労働争議をたたかう仲間とともにカンパを集め、診療所の開設費用をつくりました。その思いに心えたのが京都帝大を卒業した加藤医師



京都市 柏木みどりさん

# 無産者診療所開設の青年たち ファシズムが吹き荒れた戦前

無産者診療所 29年、労農党の山本直治代議士が暗殺されたことに抗議し、雑誌『戦旗』が無産者病院設立のアピールを提起。運動は全国に広がり、1病院、23診療所が誕生しました。弾圧で41年までにすべてが閉鎖。無産者診療所の「無差別・平等の医療」の理念は、その後、民医連に受け継がれています。

「知ってほしい」 38年、父・茂弥さんは日本共産主義者団事件で逮捕され、4年間を獄中ですごしました。両親は加藤医師について「本当にいい先生だった。みんなから心底、尊敬されていた」とよく話していました。

診療所が掲げたのは「診療 無料」「二日一劑 10 射で抑えていた加藤医師は、往診中に倒れ、虫垂炎が悪化し亡くなりました。29歳で亡くなったといえます。政府は、治安維持法で労働組合、文化・芸術、教育に削られました。1カ月



三島無産者診療所の開設を記念した写真。左3人目から横田基太郎さん（戦後、衆院議員に）、加藤医師、看護師の中井文さん、母・操さん、父・茂弥さん、書記の中井種一さんら＝1931年8月

「子どもや青年に伝えた。戦前、小林多喜二と同じ時代を生きた加藤医師と青年たちのことを。改憲の声が聞こえる今だからこそ知ってほしい」

（吉川章子）